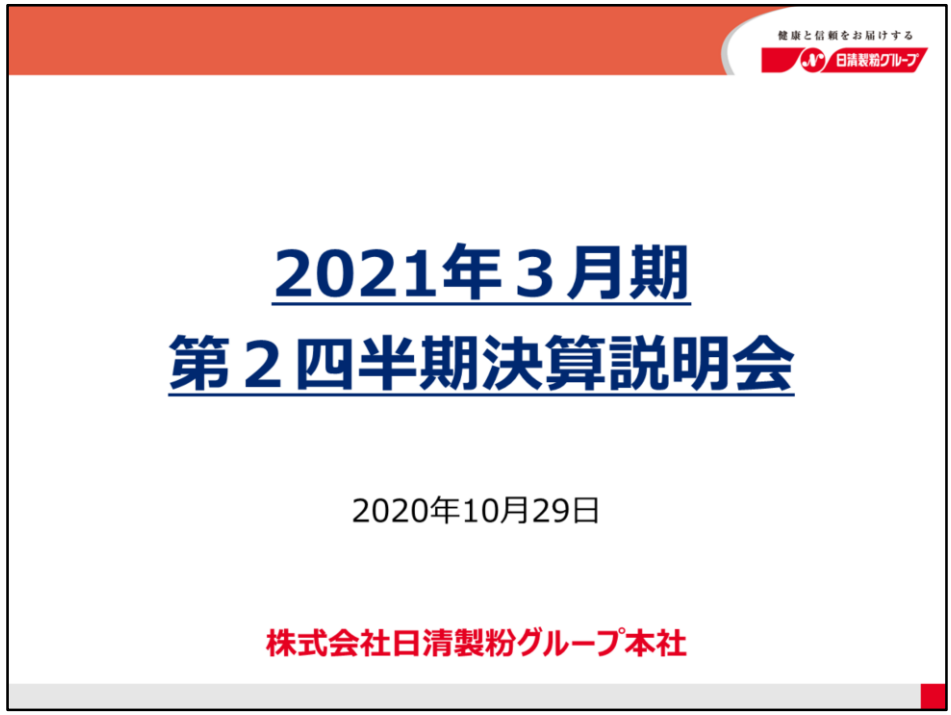


日清製粉グループ本社の見目でございます。

本日はお忙しいところ、当社グループの２０２１年３月期第２四半期決算説明会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

ご存知の通り、現在、新型コロナウイルス感染症が、世界中に危機をもたらしていますが、当社も例外ではありません。

昨年度は、今後の日清製粉グループの成長を牽引する製粉海外事業と中食・惣菜事業で大きなＭ＆Ａを２つ同時に実行いたしました。買収以降、これらの会社を如何に自分達のものにするかという点に注力し、また、合わせて収益基盤が揺らいだ米国製粉事業の立て直しにも総力を上げて取り組みました。

昨年度から今年度にかけては、今申し上げた２点に最大限に注力し、一方で、次の成長戦略を打つ為の期間とも考えていましたが、これらに加えて、今般発生した新型コロナウイルス感染症の問題にも同時に取り組んでいかなければならなくなっています。

本日は、今期の業績に対する見方に加え、課題として取り上げた、米国製粉事業、豪州製粉事業、中食・惣菜事業の状況、そして、世の中が変化する中で、当社グループが今何をしているのか、といった点についても、少し触れていきたいと思います。

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

目　次

Ⅰ．第２四半期 実績、及び通期業績予想

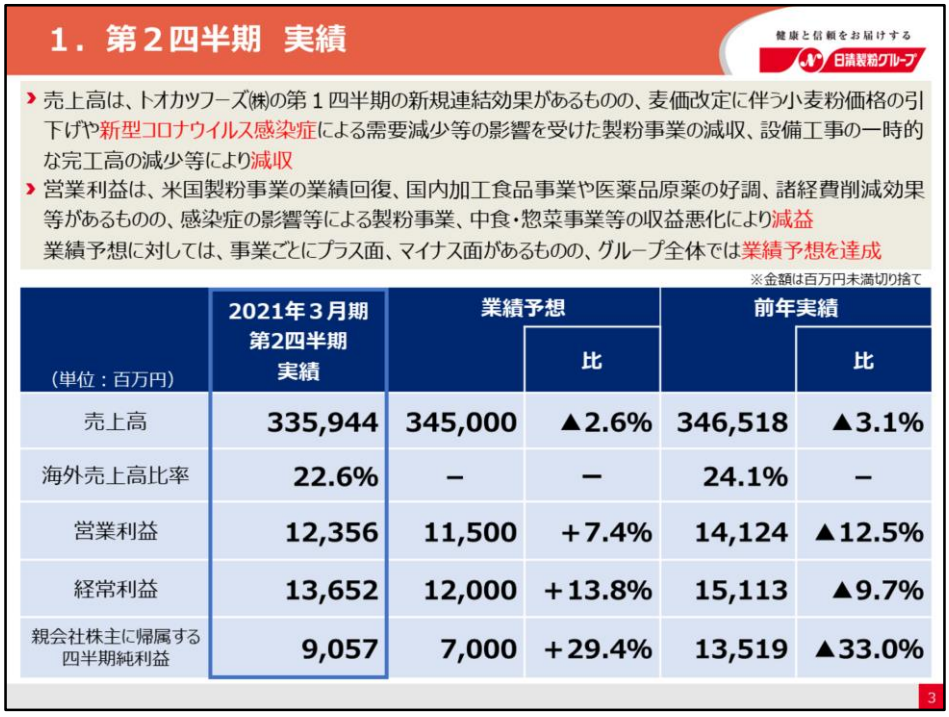
Ⅱ．当社グループの新型コロナウイルス感染症拡大における
影響と対策

Ⅲ．コロナ禍における当社グループ各事業の対応と
長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の取組み

（参考）小麦相場の状況

健康と信頼をお届けする
日清製粉グループ

Ⅰ．第２四半期 実績、及び通期業績予想



初めに２０２１年３月期第２四半期の実績について、売上高は、トオカツフーズの新規連結効果がありますが、麦価改定に伴う小麦粉価格の引き下げや新型コロナウイルス感染症による需要減少等の影響を受けた製粉事業の減収、設備工事の一時的な完工高の減少等により前年差減収となりました。

営業利益は、米国製粉事業の業績回復、国内家庭用加工食品事業や医薬品原薬の好調、諸経費削減効果等があるものの、感染症の影響等による製粉事業、中食・惣菜事業等の収益悪化により、前年比で減益となりました。

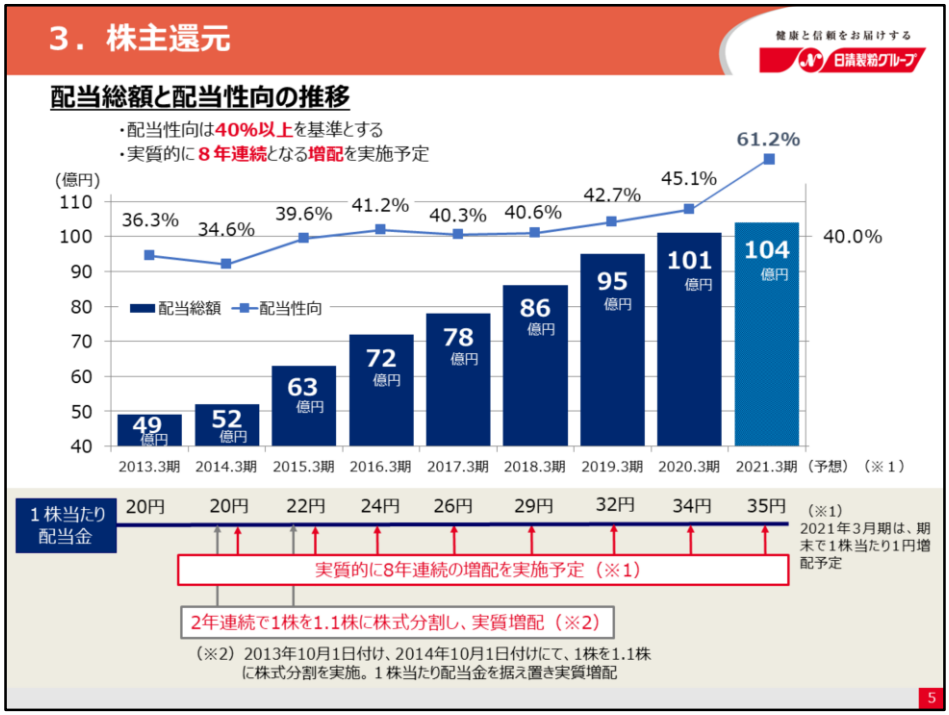
なお、業績予想対比では、事業毎にプラス面、マイナス面がありますが、全体では業績予想を上回ることが出来ました。



次に、通期の業績予想についてです。

上期とほぼ同様の状況が継続するものと想定していますが、下期は国内家庭用食品事業が上期と比べ需要が落ち着いていくことも勘案して、売上高７，０００億円、営業利益２６０億円、前期に比べて減収減益と、当初の業績予想を据え置いています。

今後の感染症の影響は不透明であり、今後も慎重に見ていかなければいけないと思っていますが、当社では今期の業績予想達成に向けた取組みとして、販売面、コスト面の両面で、ポストコロナも意識した対応を進めていきます。



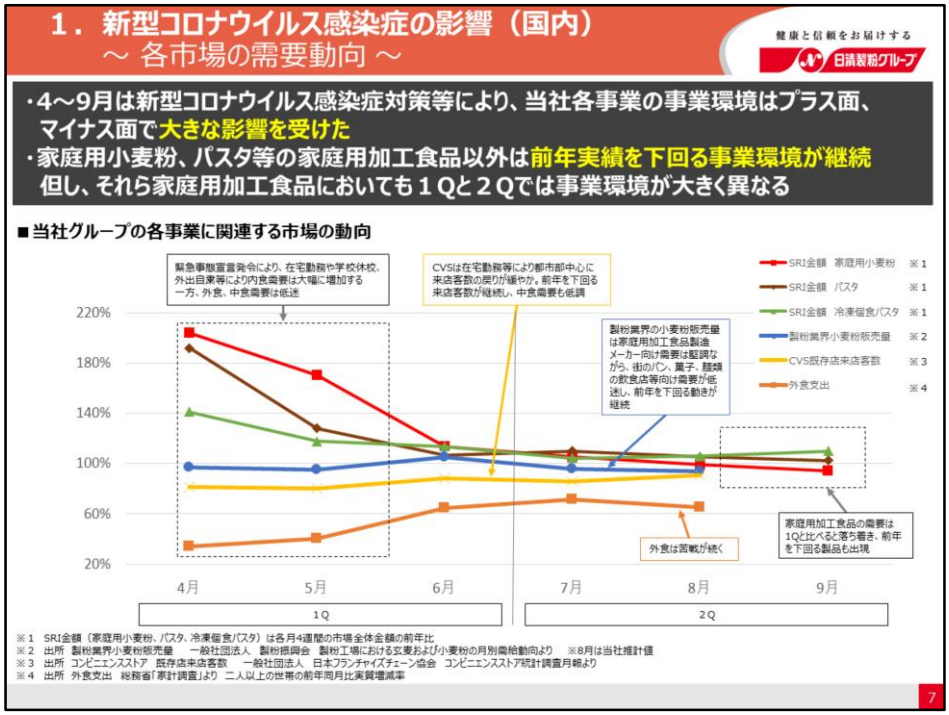
５ページは株主還元です。

当社は長期スタンスでの「安定的な利益還元の強化」を基本に、配当性向４０％以上を基準として連続増配を継続しています。

今期は非常に厳しい状況ではありますが、基本的なスタンスを維持し、一株当たり配当金を1円増配し３５円とする予定です。これにより、８期連続の増配となる予定です。

健康と信頼をお届けする
日清製粉グループ

Ⅱ．当社グループの新型コロナウイルス感染症拡大における影響と対策

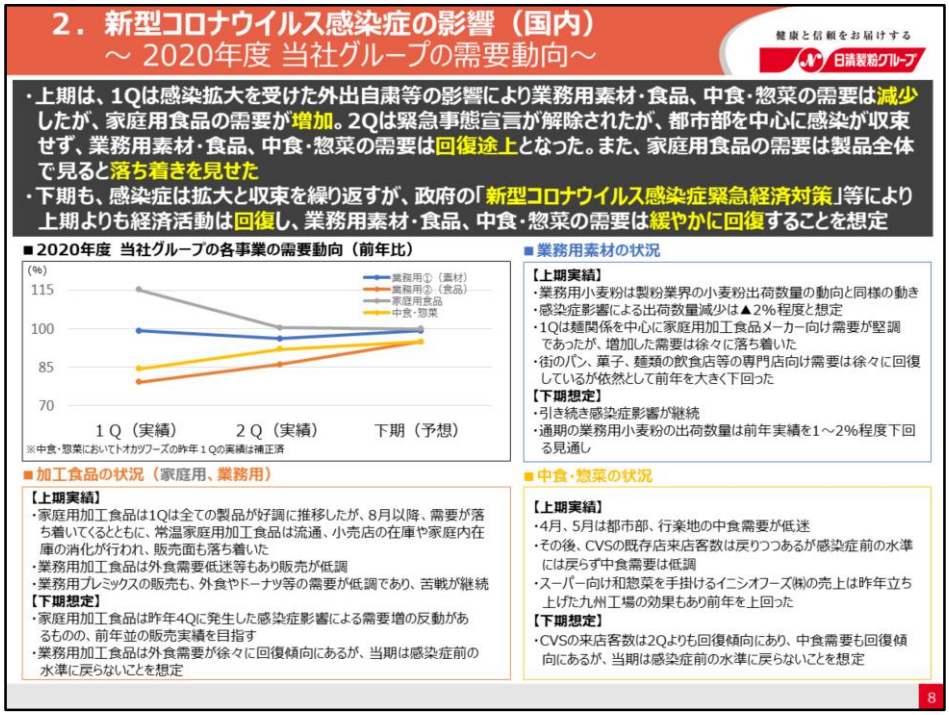


次に、新型コロナウイルス感染症拡大による当社グループへの影響と対策について、簡単にご説明します。

７ページでは、当社グループの各事業に関連する４月から９月の国内の市場動向です。感染症により、事業環境はプラス面、マイナス面で大きな影響を受けたことが見て取れると思います。

家庭用小麦粉、パスタ、冷凍パスタ等の家庭用加工食品以外は、製粉業界の小麦粉販売量が前年を下回る動きが継続し、また、ＣＶＳ・外食では極めて大きなマイナスの影響が出ています。

また、当社の取り扱う家庭用加工食品においても、１Ｑと２Ｑでは事業環境が大きく異なってきています。



次に８ページでは、７ページの事業環境の中、当社グループの各事業の国内の需要動向の実績と、下期の見通しをここにまとめています。

中程左のグラフをご覧ください。上期１Ｑは、感染拡大を受けた外出自粛等の影響により、「業務用素材・食品」「中食・惣菜」の需要は減少しましたが、「家庭用食品」の需要が増加。２Ｑには緊急事態宣言が解除されましたが、都市部を中心に感染が収束せず、「業務用素材・食品」「中食・惣菜」の需要は緩慢な回復にとどまっています。また、「家庭用食品」の需要は製品全体で見ると落ち着いた動きとなっています。

下期においても、感染症は拡大と収束を繰り返すことが想定されますが、国による様々な経済対策等により、上期よりも経済活動は回復し、「業務用素材・食品」「中食・惣菜」の需要は緩やかに回復するものと見ています。ただ、今期中には感染症前の水準には戻らないものと見ています。

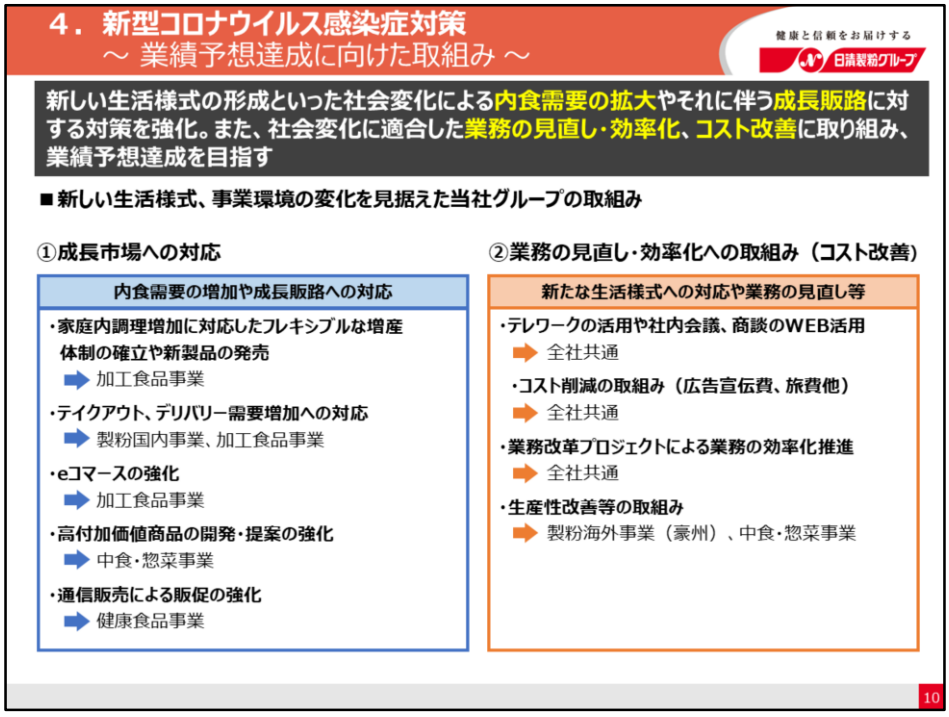
また、「家庭用加工食品」は需要が落ち着いてきており、加えて昨年４Ｑに発生した感染症影響による需要増の反動がありますが、下期は前年並の販売実績を目指していきたいと考えています。

なお、「業務用素材」「加工食品」「中食・惣菜」の上期の状況及び下期の想定については、このページの右側と下半分に記載している通りです。



9 ページは、当社の主要な海外拠点の状況です。

日本向け加工食品の生産工場は順調に稼働しており、北米では需要が全体として堅調に推移していますが、東南アジア、オセアニアでの製粉やプレミックス事業は、需要減少・出荷構成悪化の影響を受けています。また、インドのイースト工場建設も一時的に中断し、本格的な工事再開を待つ状況にあります。



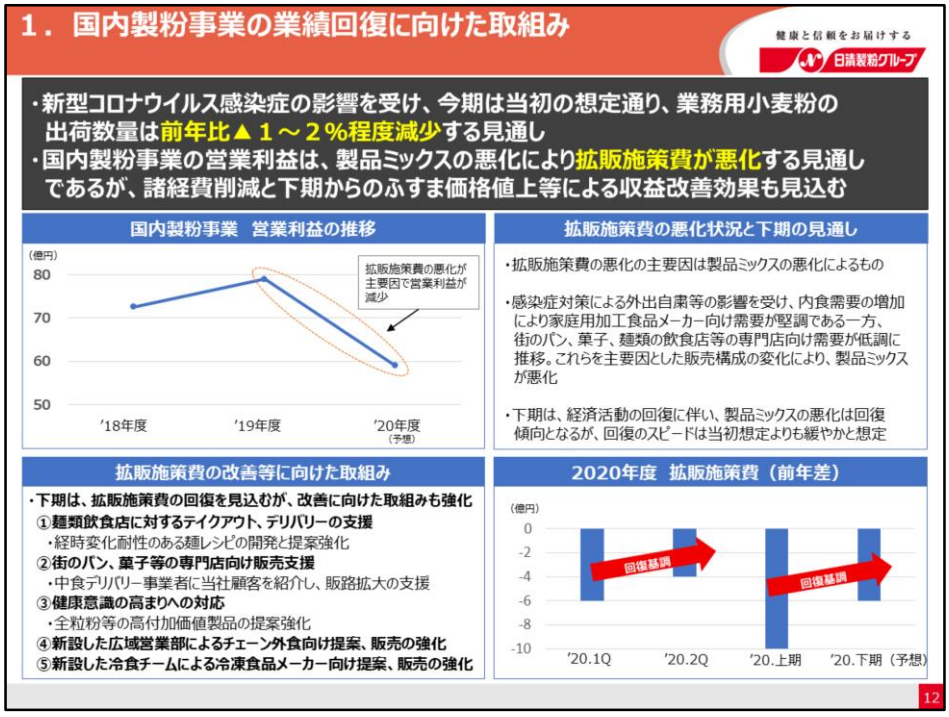
こうした状況の中、当社では今期の業績予想達成に向けた取組みとして、販売面、コスト面の両面で、ポストコロナをも意識した対応を進めています。

基本的な考え方として、「新しい生活様式の形成といった社会変化による内食需要の拡大やそれに伴う成長販路に対する対策を強化する」ということと、また、「社会変化に適合した業務の見直し・効率化、コスト改善に取り組む」ということです。

いずれにしましても、社会機能維持のための主要食糧等の安定供給こそが、当社グループの企業としての社会的使命と捉えており、また、企業価値の源泉であると考えています。この基本的な考え方に基づき、様々な取組みを進めていくつもりです。

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

Ⅲ．コロナ禍における当社グループ各事業の対応と長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の取組み

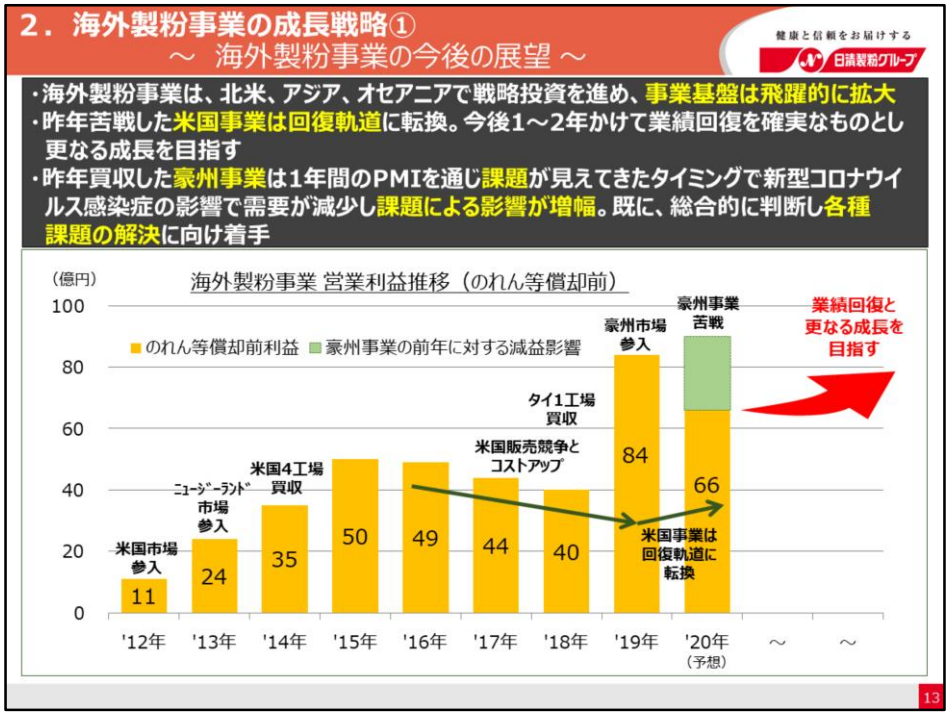


１２ページは国内製粉事業の「現状」と「業績回復に向けた取組み」についてまとめてあります。

今期は、感染症の影響により出荷数量は１～２％程度減少する見通しですが、外出自粛等の影響や経済活動の停滞を受け、出荷構成が変化したことによる製品ミックスの悪化により拡販施策費が悪化しています。

上期はこの要素で営業利益が前年に比べ大きく下振れしました。下期は、経済活動の回復に伴い、拡販施策費の悪化は徐々に回復に向かうと考えていますが、ここにある様な改善に向けた取組みも強化し、回復の速度を上げていきたいと考えています。

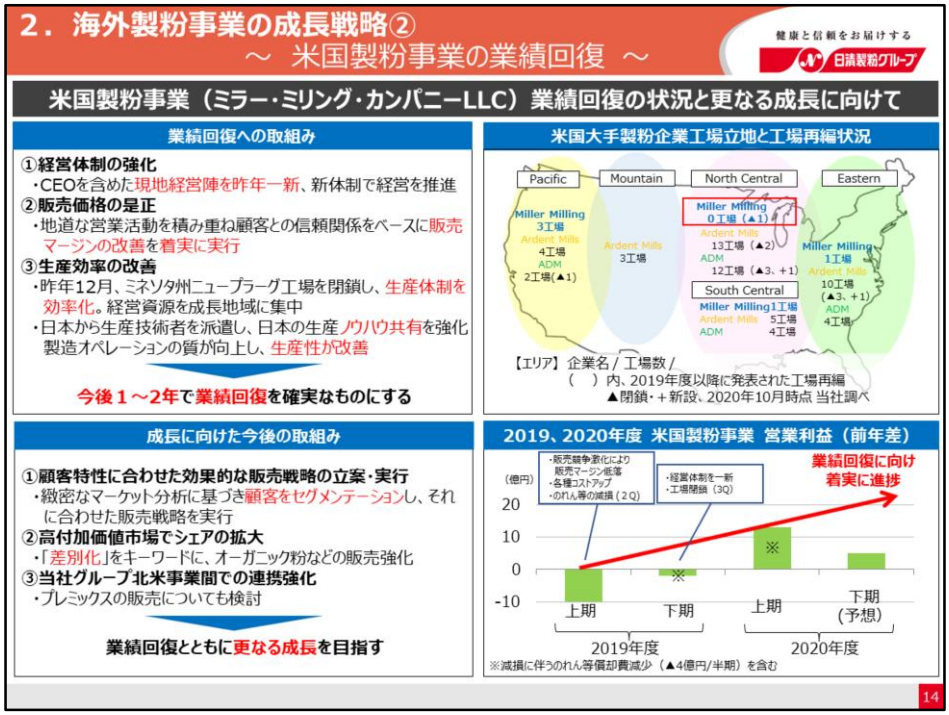
また、上期に引き続き諸経費の削減に取り組むとともに、下期から２年ぶりにふすま価格を値上げしています。国内製粉事業の業績を回復軌道に乗せていきたいと考えています。



１３ページは海外製粉事業の状況です。

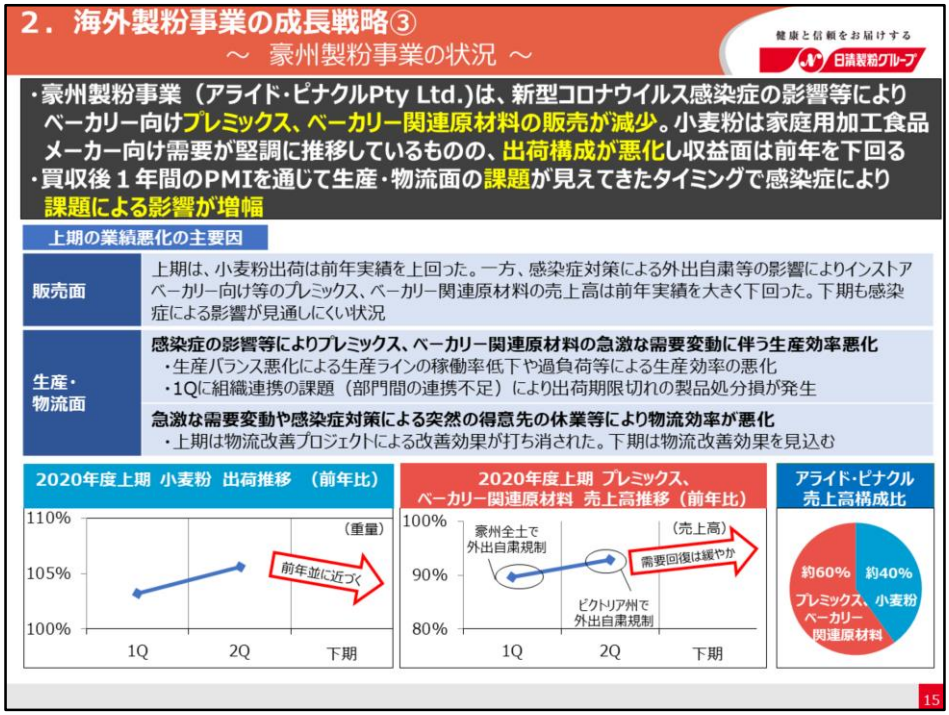
太平洋を囲む形でこれまで事業は飛躍的に拡大してきました。昨年は米国事業の収益悪化が大きな経営課題でしたが、経営体制を強化、一新し、販売価格の是正と生産効率の改善に取り組んでおり、業績は回復軌道に転換してきたと考えています。今年を含めて１～２年かけて業績回復を確実なものとし、更なる成長を目指していきます。

また、昨年買収した豪州事業は１年間のＰＭＩを通じ課題が見えてきたタイミングで感染症の影響で需要が減少し、課題による影響が増幅しました。既に各種課題の解決に着手しており、業績の回復を図っていきます。



１４ページでは、米国事業の業績回復に向けた取組みのポイントを纏めています。

繰り返しとなりますが、米国のミラー・ミリングは経営体制を一新し、販売面、生産面での地道な取組みを重ねており、業績回復に向け着実に進捗していることが、右下の表で見れるかと思います。今後、業績回復を確実なものとし、更なる成長を目指していきます。



１５ページは上期の豪州製粉事業の状況です。

豪州は、感染症による対策を厳格に実施している影響等から、インストアベーカリー等でのスイーツ系のパンやケーキ等の販売が低迷し、上期はアライド・ピナクルのプレミックスやベーカリー関連原材料の販売が大きく落ち込みました。

一方、小麦粉の販売は家庭用加工食品メーカー向け需要が堅調に推移し、出荷は前年を上回っているものの、日本同様に出荷構成が悪化し、収益面は前年を下回っています。引き続き、感染症の影響が見通せない状況であり、販売面は慎重に見ていかなければいけないと考えています。

また、買収後１年間のＰＭＩを通じて、生産や物流面の課題が見えてきたタイミングで、感染症により課題による影響が増幅しています。１Ｑはこの影響により、大幅減益となりましたが、既に業績回復に向けた取組みを開始しています。



１６ページは、業績回復に向けた取組みを記載しています。

販売面では、豪州内での拡販や輸出の強化に取り組んでおり、それをバックアップする開発人員の増強も図っています。

また、１Ｑに大きな課題となった需給管理、生産効率についても改善を図っており、２Ｑには生産効率改善が見込めないラインを１ライン集約、また、今後、更なる効率化を目指し工場の統廃合も検討していきます。

もう一つの課題である物流に関しては、物流改善のプロジェクトは２月から開始しており、上期は急激な需要変動や感染症対策による突然の得意先の休業等により物流効率が悪化し、プロジェクトによる改善効果は打ち消されましたが、積載効率や配送効率の改善に加え、適正在庫化による倉庫オペレーションの効率化にも取組んでおり、下期からはプロジェクトの効果が出せるものと考えています。これらを実施することで、今年も含めて２～３年かけて業績回復と成長基盤を構築してまいります。



１７ページは海外食品事業の成長戦略です。

インドのイースト新工場については、感染症対策で日本からの建設要員は一時帰国をしており、本格的な工事再開は出来ていません。本格的な工事再開のタイミングは現時点で不透明ですが、工事が再開出来れば半年程度で稼働を始められるところまで建設は進んで来ています。

また、将来のプレミックスのアジア事業の拡大を見据え、ベトナムのプレミックス工場を今年の１月から稼働させました。感染症の影響もありますが、アフターコロナを見据えて販売を強化しているところです。



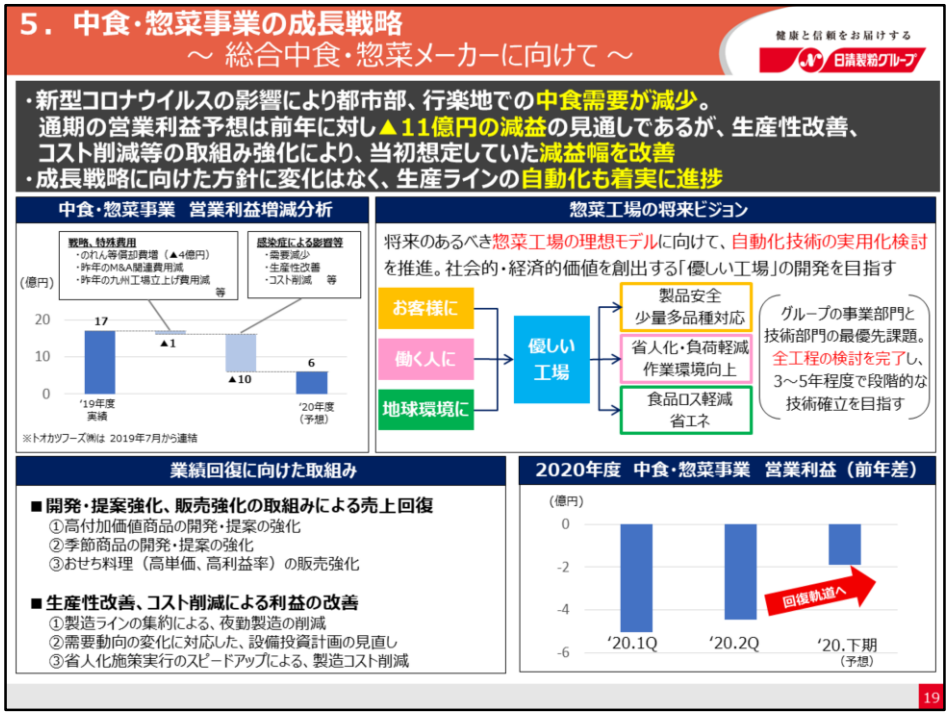
１８ページは加工食品事業の取組みです。

１Ｑは内食需要の増加により家庭用加工食品は堅調に推移しましたが、現在需要は落ち着いてきています。

下段左側にある通り、食需要のトレンドとしては、家庭内調理が増える状況であると見ており、「簡単・便利」「おうち外食」「親子手作り」をコンセプトに、調理が楽しくなるスマート・イエナカ食をテーマにした新製品を９月に発売しました。このように、コロナ禍においても新製品を発売できたことは市場から一定の評価を頂いています。

また、中段右側の通り、差別化戦略も継続して進めており、早ゆでスパゲティも引き続き好調に推移しています。

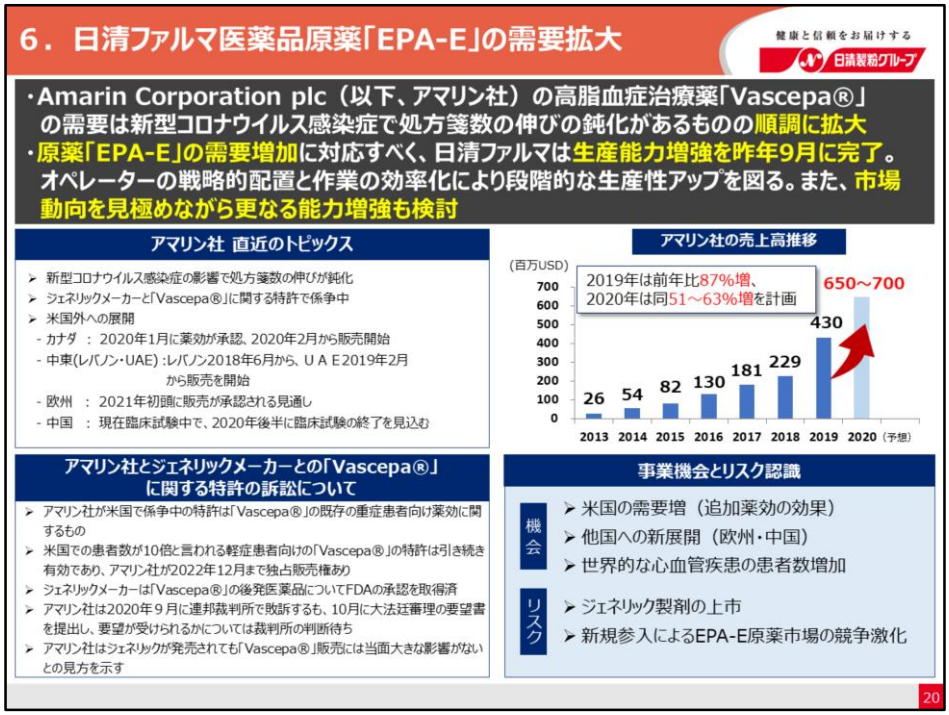
一方、下段右下にあるとおり、外食需要の減少等により苦戦している業務用加工食品は出荷回復に向けた取組みを強化しているところです。



１９ページは中食・惣菜事業についてです。

感染症の影響により都市部、行楽地での中食需要の減少により、今期は減益となりますが、生産性の改善、コスト削減等の取組み強化により、当初想定していた減益幅を改善させ、業績は回復傾向の見通しです。

また、中食・惣菜事業に対する成長戦略の方針に変化はなく、生産ラインの自動化などの取組みをしっかりと進めていきます。



２０ページは日清ファルマの医薬品原薬事業です。

得意先であるアマリン社の販売は、米国における感染症の影響により、処方箋数の伸びの鈍化があるようですが、順調に売上を伸ばしています。

また、ジェネリックメーカーとの特許に関する訴訟の問題もありますが、来年初頭にはＥＵにおいて販売が承認される見通しです。

当社といたしましても、右下に記載しました通り、事業の機会とリスクを冷静に捉え、成長戦略を実行していく考えであり、市場の動向を見極めながら、更なる生産量の拡大も検討しています。

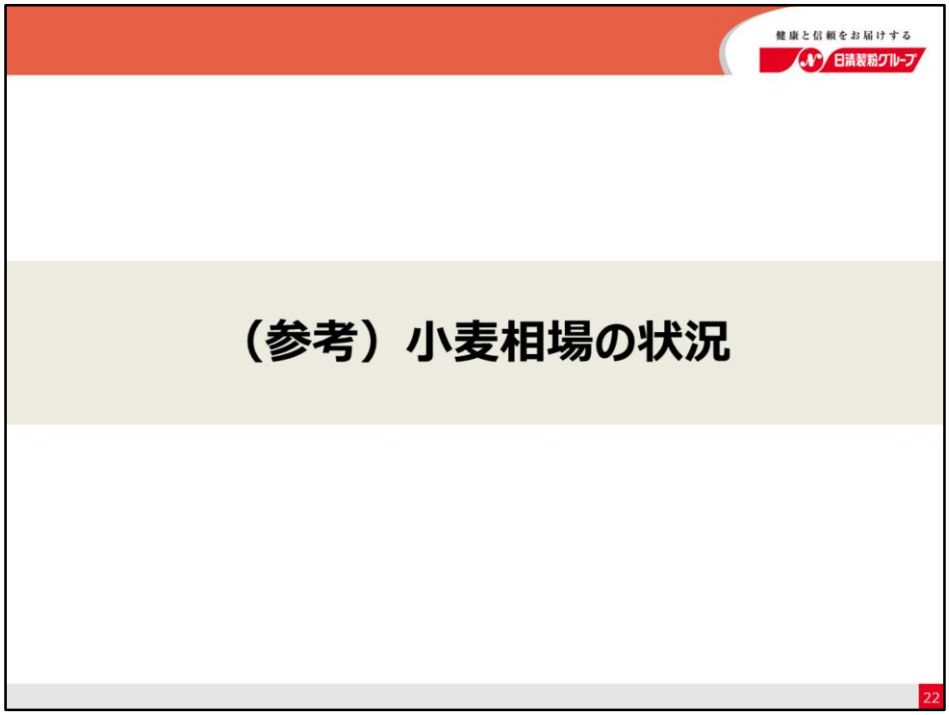


２１ページは「その他セグメント」の状況です。

今期は一時的な設備工事の減少やペットペットフード事業譲渡等により、「その他セグメント」は減収減益の見通しですが、エンジニアリング事業では、工事管理の徹底や諸経費削減の取組み等により、減益ながら当初想定していた減益幅を改善させています。

尚、中長期的には食品工場の自動化ニーズ等も多く、プラントの受注環境は今後も堅調に推移するものと見ています。

また、事業ポートフォリオ強化の一環として本年３月末にペットフード事業の譲渡を実施しました。今期は受託生産のみ行い、今期末でペットフード事業が終了する予定です。



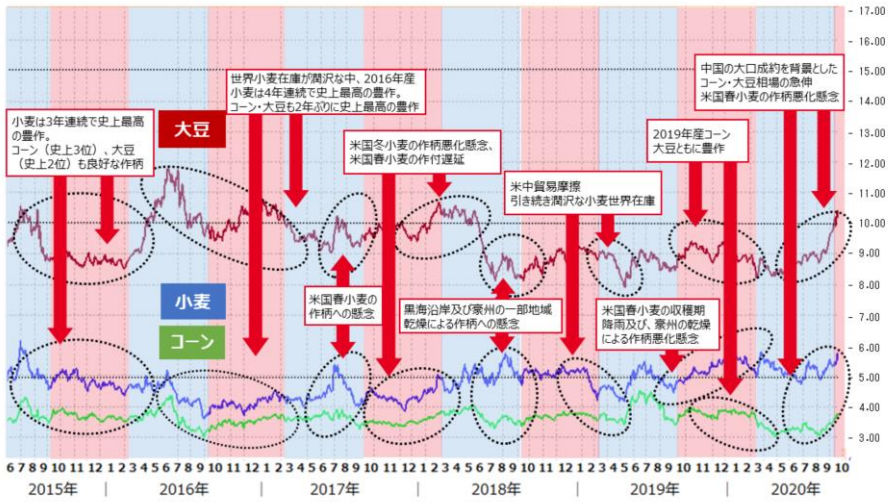
２２ページ以降は参考として小麦相場の状況を記載しています。
こちらはご確認いただけたらと思います。

小麦相場の状況（１）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

【穀物相場推移】

シカゴ先物相場　（単位：ＵＳ＄／Ｂｕ）



注）グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

23

小麦相場の状況（２）

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

【2020年10月期　麦価改定】（改定額算定期間：2020年3月第２週～2020年9月第１週）

小麦相場（シカゴ）は、世界の在庫率の上昇及び主産地における順調な生育により下落。また、為替が円高傾向で推移したこと及び輸送需要減少に伴い海上運賃が下落したことから、小麦の輸入価格は下がった。

2020年 10月　1日 ～ 輸入小麦政府売渡価格　５銘柄平均4.3%値下げ

2021年　1月 12日 ～ 日清製粉㈱業務用小麦粉を値下げ

【今後の小麦相場の変動要因】

上昇要因

・2021年産北米冬小麦の作付け遅れに伴う、作柄悪化懸念
・中国向け穀物輸出増加に伴う、相場上昇懸念

下落要因

・2020年産の十分な生産量に伴う、潤沢な世界小麦在庫見通し

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

記載内容に関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。